



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



小教区の現状を分析し未来へ

分かち合いを中心にした今年の教区評議会

2年に一度開催され、教区の重要な問題について司教、主任司祭、小教区信徒代表で話し合う「教区評議会」が、鹿兒島カトリック教区本部を会場に11月3日(木)開催された。出席したのは教区内にある28小教区から所用のため欠席した鹿屋小教区を除く27小教区。出席者たちは地区別、グループ別の分かち合いで小教区の現状分析を行い、また小教区の活性化の手立てを探った。



11月3日(日)午前10時から鹿兒島カトリックホール・ザビエル教会ホールなどを会場に教区評議会が行われた。今回のテーマは、「神のいつくしみの特別聖年にあたり、信仰の伝達と班制度の生かし方」。

①前回の教区評議会後、小教区の信者の交わりと宣教は班を中心にしたものになったか。もし、そうならなかったとしたら、

何故か。
②信仰の伝達、特に親子への伝達について。
③神のいつくしみのわざの実践。たとえば教会から遠ざかっている人との関

教区の再編成、司祭交流を検討

長崎教会管区司祭会議

10月25日(火)から27日(木)まで、長崎教会管区司祭の司祭、司祭の集いが福岡

わりについて。
午後からは、午前中に出された分かち合いから教区全体を取り組むべきことがあるかを考えるため、地域混合で6グループに分かれて分かち合いを行った。
郡山司教も午前・午後の分かち合いに参加し、総括では、「高齢化の捉え方として嘆くのではなく、できることをすること。祈りについて多くの意見が出されたこと」に触れた。分かち合いの内容は、後日、機会を設けて紹介する。



参加者は130余人。教会管区レベルの集まりは、1999年の西日本司祭大会以来16年ぶり。
今回のテーマは、「長崎教会管区の教区再構築と司祭間の交流」。

現状を互いに理解し、宣教に向けて教区間の連携を深めていくことが狙い。
最初に各教区の現状と課題が発表され、事前に行われた司祭団意識調査を基本に、教区編成、各教区の司祭間交流の在り方、長崎教会管区レベルでの交流(現に行われている東日本大震災被災者支援の活動のようなもの)について15の分団に分かれて率直に語り合った。全体会では、そのまとめが行われた。

司祭職をまっとうして

柔和の人大野和夫神父帰天

鹿兒島教区司祭ヨゼフ大野和夫神父の葬儀ミサと告別式が11月7日、奄美市名瀬幸町の名瀬聖心教会であ

った。挨拶に立った郡山健次郎司教は、「最後まで司祭職をまっとうし、すべてを神さまにささげた一生だ

つた」とその死を悼んだ。温和な優しい人柄で多くの人を魅了した大野神父。奄美大島内外から親族、司祭、信徒などが参列。聖堂は神父を慕い、別れを惜しむ人々であふれた。

つとうし、すべてを神さまにささげた一生だった」と感謝した。また、決して偉ぶることのなかった神父の人柄を偲び、神父が流暢にドイツ語を操るエピソードを紹介。「『能ある鷹は爪を隠す』と言うが、大野神父の爪は人を傷つけるものではなく、人を救いへと運ぶ爪だった」とその遺徳を称えた。

敬司元信徒総代が、杖を2本使うようになった大野神父を心配すれば「足が4本もあって安心」、あるいは同教会ではかつて十字架像が天上から吊り下げられていたので「その下で司式するのは怖くないか」と問えば、「十字架の下敷きになつて祭壇で亡くなるなら本望」と応答するなど、神父の泰然自若とした人柄を紹介。そして「誰にも介護も看護もさせず、さようならを告げることも言わせることもなく逝かれた。われわれに最後まで信仰の模範を示した」と弔辞を述べた。

第32回ネットワークミーティング

カトリック青年たちの出会いと交流、分かち合いの場として、年2回行われているネットワークミーティング。9月に鹿兒島の青年たちが桜島を中心にして全国の青年を迎えて行ったが、次回は関東の青年たちによって実施される。大会のテーマは「いってらっしゃい」。詳細は次の通り。

日時：2017年3月18日(土)12時半から19日(日)13時まで。
場所：カリタス女子短期大学(横浜市青葉区あざみ野2-29-1)
対象：18歳以上の青年
参加費：4,500円
申込：カトリック青年連絡協議会ホームページhttp://catholicyouth.jp/から「お知らせ」をクリックすると申し込み方法が示されている。
締切：1月31日(火)



郡山司教は、大野神父の最期に言及し、「死の直前までミサをささげ、司牧に努めた。最後まで司祭職をま

出を披露した。また「小限憲士神父や貴島丈弥神父を生み、いま神学院で学ぶ二人の教区神学生を導いた」とし、「司祭召命に関する熱意も忘れられない」とその貢献を賞賛した。

この日、司教のほか、教区司祭および修道会司祭15人が参加。また島の内外から親族、信者など約500人が参列し、温和な優しい人柄で親しまれた神父との別れを惜しんだ。

【4面に関連記事】

神学生の「僕の長崎への道」

日本二十六聖人の道を歩いて

2月23日(火) 神戸三宮
— 明石: 約25 km

昨晩は六甲山の麓にあるイエズス会神戸修道院(ザビエルハウス)に泊まる。神学院の養成者、コリンズ神父の紹介。僕が日本二十六聖人の道を基本、テント泊で歩くと聞き心配、経路にある心当たりの教会、修道院に連絡してくれた。大阪で世話になった崔周永助祭も同様だ。結果、二人のお蔭で、今のところ姫路までテントを張る必要がない。ありがたいかぎり。このように、単独行と絆がついてはみても、決して一人で歩いているのではない。

今朝も。修道院の赤松広政神父とオマリー神父と朝食を共にしたときのこと。僕の旅に話が及び、二人は、これを「巡礼」と呼んだ。「とんでもない。肉刺が痛くて祈りどころではない。『巡礼』だなんて言うのも憚れる」と遮る僕に、オマリー神父は真顔で言った。「そんなことない。それでも主は、君と共に歩いてくださっている」。

午前10時過ぎ、三宮、元町の歓楽街を抜ける。鉄道の高架下に、飲食店をはじめ工場まで、さまざまな業態の並ぶのが珍しい。兵庫駅前から鉄道路線を離れ、趣きも何もない国道へ。大田町交差点近辺のコーヒーショップで休憩。トラックでは身体が受けつけず、シュガーステイックを三本も。疲労のせい。滅多にないことだ。国道を南西へと直進。や

がて須磨の海が。鈍色の空を映し、銀しゅう色に静かなおもてを輝かせている。海岸に並行して走る鉄路に陣取った撮り鉄の一人に、海をバックにシャッターを依頼。撮り鉄が狙うのはJRの特急のよう。だが僕には、僕の左手を走る山陽電鉄の、旧型車両と思しき古風で鄙びた佇まいが好ましい。車体の柔和なクリーム色や橙色が、背後の山の緑に馴染んで目にも優しく映るのである。

海を眺めつつ、ひたすら西へ。三井アウトレットパークを過ぎると、明石海峡大橋が。目前に聳え立つ巨大なその鉄骨とコンクリートの構築物は、たしかに壮観ではあるが、化け物じみている。いま、人間原初のリズムを再認識し歩く僕にとって、それはもはや人間のスケールを超えるものしか映らない。海岸線が途絶え、埋立地

らしきところに入る。明石の市街地。国道から脇道へ。子午線の時計塔を眺めつつ、住宅街を行く。午後4時過ぎ、明石教会着。

2月24日(水) 明石— 姫路: 約43 km

午前7時、朝の祈り。その後、ミサ。

朝の祈りが始まるまで、お聖堂に坐して待っている。不思議と気持ちが落ち着いて。歩行ペースの上がない焦燥も、自らの不覚を口惜しく思う雑念も失せて。また何より、ミサに与るうち、疲労よりも力漲る感覚に満たされたのである。

このことか、と合点がいった。「ご聖体から力を汲みなさい。苦しいときこそ、聖務日課とミサを大切にしよう」。神学院でこのとあることに、特に神学生が体調不良や心身のバランスを崩してお聖堂に空席が目立つようになると、決まって養成者が語っていた。明石教会では、朝の祈り

もオルガン伴奏で唱える。ミサも、平日の朝ミサだが、オルガン伴奏付き。「小教区としては珍しいでしょう」と笑顔を湛え松浦謙神父。

きのう初めてお目にかかり、さっぱりとしたその面貌は、一切のこだわりが拭かれていくように思われた。嫌味のない清々しい神父だ。朝食のとき、姫路から先、広島教区内に知己もなく、宿泊先もほとんど確保できていないと知ると、「神学生時代の同級生が広

カリタスジャパン担当者会議を終えて

教区担当者 終身助祭 川口 茂

カリタスジャパン担当者が10月25日、26日の2日間、カトリック中央協議会本部で開かれた。

出席したのは責任司教の菊池司教はじめ援助部会秘書、啓発部会秘書、全国16教区からの担当者、社会福祉推進部長、事務局長ほか職員計25人。

また大分教区(吉田師)からは、湯布院、竹田の被害が大きかったこと。お告げのマリア修道会湯布院修道院が被災して引き揚げたため、そこを借り上げて教

島教区の司祭に「電話をしてくれた。感謝の言葉もない。午前10時、明石教会を発つ。きのうから左足の脛が痛む。無意識のうちに肉刺をかばい歩くうち、痛めたものか。ペースが上がらず閉口する。おまけに歩行中目に映るのは、市街地の殺伐とした景観ばかり。山を削り、地を均し、セメントとアスファルトで塗り固めたそれは、何とも無機質で暴力的だ。一向、興が乗らな

い。「京阪神間は市街地を行くばかりで詰まらないが、広島教区に入れば山もあって楽しい」との松浦神父の言葉を思い出す。神父は日本二十六聖人の道の、京阪神間を歩いている。ちなみに、サンティアゴ巡礼の道(スペイン)を自転車車で走破した猛者でもある。西国街道の碑のある教信寺を撮影。ここですすでに午後4時。今日の行程のまだ半分しか至っていない。情けないが、これが今の僕の

現実だ。午後6時過ぎ、すでに夜の帷が。街灯の乏しい道を、いまだこを歩いているかも分からず、ひたすら西進。やがて、所々に見る商業看板の、姫路支店などというロゴに、市内に入っていることを知る。市川橋を渡り、直進。ライトアップされた姫路城が。夜空に真白く浮かんで。姫路教会は、その傍らに。這々の体で辿り着く。午後8時過ぎである。

会にしていること。別府教会の屋根に被害があったこと等が報告された。このほか、東日本大震災関連では長崎教会管区のカリタス大槌ベースが岩手県大槌町「こどもセンター」の活動を支援しており、このたびの新築移転にあたり大槌町教育委員会に3千万円の支援を決めた。この他にも11件の支援決定があった。

この他1日目は、調布市で中学生から20歳代まで誰でも利用できる「子どもたちの止まり木になれたら」というNPO法人「青少年の居場所KITOS」(サレジオユースセンター)の活動内容を聞いた。(議題3)は、事務局報告で①各教区四旬節献金報告、②四旬節資料申込案内・資料の部数増減に伴う申込みについて、③次回定例全国担当者会議は来年10月福岡教区で開催されることが決まった。



明石教会前で

文芸

俳句

国分教会 政 ノブ子
秋冷や宮様偲び傘の列
島教会ミサ荘厳に暮れの秋
潮風に浜辺のアダン赤とんぼ
ふるさとの変貌に戸惑う里の秋
鹿児島純心 川上 和
聖年のミゼリコルデス年暮るる
明けの空描いている待降節を

短歌

鹿児島純心 川上 和
ザアカイや「早く降りよ」と主のみ声新
たな命エリコ町の町に
幼子の両親信仰宣言し聖なる水に神の子
誕生

奄美市 林 常広

始良教会 川口 節子

置き去りか季節外れの冬の蝉

秋の野に野菊咲きいし必然と

祭壇奉仕者に選任

ローマに学ぶ霧島神学生



ローマで司祭養成を受けている霧島杉神学生が11月1日(火)、聖アポリナレ聖堂で祭壇奉仕者に選任された。(写真はローマの日本人会の参列者とともに記念撮影した霧島神学生)

今年もキリスト者の生き方を学ぶ

福者レオ七右衛門殉教祭

1608年11月17日、信仰を棄てなかつたために斬首刑に処された「薩摩の殉教者・福者レオ税所七右衛門」の殉教を記念し、その熱い信仰に倣おうとする式典が11月13日(日)午後、レオ七右衛門が受洗した京泊教会跡地と川内教会であった。式典への参加者は例年に比べあまり多くなかったものの、壮年、婦人が記念祭の準備に汗を流し、また若者を中心とした10数人が徒歩巡礼を実施して殉教者の心を偲ぶ努力がなされた。またミサの説教では郡山司教がキリスト者としての生き方を訴えるなど、意義深い殉教祭となった。

レオの受洗

領主・北郷加賀守三久に従い税所七右衛門が都城から平佐に移ってきたのは1596年のこと。その七右衛門は、友人で信者でもあったパウロ吉右衛門の影響もあって、1608年7月22日、ドミニコ会の神父たちによって建てられた京泊教会で受洗した(洗礼名はレオ)。キリスト教を信仰することは禁じられていた当時の税所七右衛門の受洗は、領主は彼に棄教を促すが「救霊にかかわることであるから、受け入れられない」と拒み、あえて殉教への道を選んだのだ。



京泊教会跡地での式典

今年と同記念祭「福者レオ税所七右衛門殉教祭」は、川内港から京泊教会跡地までのロザリオを唱えながらの行列で始められた。一行は、川内教会から川内港までの15キロを徒歩巡礼してきたラ・サール学園「ロザリオ会」のメンバーと若者を中心とした10数人の到着を待って、出発。頭島光神父(谷山教会)先唱に続き、ロザリオの祈りを唱えながら数百メートルの山道を登り、教会跡地へ向かった。教会跡地では、90人あまりが聖歌

今年殉教祭

川内教会の行事として30数年前に始まったレオ税所七右衛門の殉教を記念するこの行事は、現在では教区主催として実施されているものの決して規模の大きいものにはなっていない。それでも川内教会の婦人たちの同記念祭でもてなしのための活動、同教会の壮年をはじめとする教区の壮年たちの京泊教会跡地までの登山道の清掃・整備など、多くの協力のおかげで継続し開催されてきている。

今年と同記念祭「福者レオ税所七右衛門殉教祭」は、川内港から京泊教会跡地までのロザリオを唱えながらの行列で始められた。一行は、川内教会から川内港までの15キロを徒歩巡礼してきたラ・サール学園「ロザリオ会」のメンバーと若者を中心とした10数人の到着を待って、出発。頭島光神父(谷山教会)先唱に続き、ロザリオの祈りを唱えながら数百メートルの山道を登り、教会跡地へ向かった。教会跡地では、90人あまりが聖歌

とロザリオの祈り

その後、ハンマ神父からレオ七右衛門の子孫との出会いやそれにまつわるエピソードなどを聞き、聖歌を歌って、殉教者の洗礼への意気込みを学んだ。

教会跡地での祈りの後は、会場を川内教会に移してセレモニーと郡山司教司式によるミサがあった。午後2時30分からのセレ



モニーは、教会前広場でレオ七右衛門の受洗から殉教までの解説を聞き、その後、殉教記念碑に花束が手向けられ、レオの殉教を称える歌が歌われた。

その後、聖堂内でささげられたミサでは、集まった140人余りに説教した司教は、この日の福音朗読の箇所を本田哲郎神父の解釈

司教執務室便り

宣教師派遣の夢

七月六日のブログにも書いたことだが、溝辺の修道院からベトナムに派遣された八十一歳のシスターから二度目の手紙と写真が届いた。若い志願者四人と共に現地での教様を訪問したときの写真が同封されていた。疲れた様子もなく澁刺と輝いて見えた。改めて感心した。

「教区司祭の定年は七十五歳」と一応決まっていますが、「足腰の立つうちは」と生涯現役を旨とする司祭たちにとって八十一歳という年齢は驚くようなトシではない。しかし、「巡回教会の多い奄美に赴任」ということになると誰もがしり込みすると思うし、周りも不安に思うに違いない。

最近では口にすることもなくなったが、「鹿児島教区から宣教師を」との思いがまったく消えたわけではない。しかし、二度にわたるベトナムからの手紙を読むにつれ、再び同じ思いが頭をもたげてきた。そ

短信

を引用しながら、「キリストを信じる私たちは、自我に、そして世の中に絡め取られないようにしよう。そしてイエスの協力者として、神から目をかけられている同志として、神が大切にしてくださるように、互いにも大切にしよう」とメッセージを送った。

▼玉里教会で聖信式

11月6日(日)玉里教会(小隈憲士神父主任司祭)で聖信式があり、中高生5人が郡山司教から聖信の秘跡を受けた。

▼唐湊墓地でミサ

11月6日(日)午後、死者のためのミサがカトリック唐湊墓地でささげられ、40人あまりが参列した。

してふと思った。「そうだ、ボクが行こう!」これまでは、「誰を送ろうか」「ハイ私がおります」(イザヤ六章八節)と元氣よく手を上げる若きイザヤを期待していたと思う。しかし、ハツラツと輝く八十一歳のシスターを見ていて、彼女と若きイザヤが重なったのだ。そして、反射的にとうか脈絡なしに「ボクが行きます」になったというウケ。

昨年、現地の司教様の側で共産党政権下での感動的な降誕祭を祝ったのもまだ記憶に新しい。今度は、日本人を迎える側として立ちたいと思うようになっていく。

先のブログは「鹿兒島からベトナムに派遣される志願者が出るのも時間の問題?」で結ばれているが、言い出しつぺの自分に、こんな形でお鉢が回ってくることは想像もしなかったが本気で考えようと思っ

ている。もつとも、「シスター、ボクをチャプレンに...」、「エーッ、ご無理なさらないで」とやんわり断られるかもしれないが、



「祝 主の御降誕!」

会と催し (12月)

3日(土) 日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭

4日(日) 小川靖忠神父叙階記念(1972年)

7日(水) 待降節第2主日

4日(日) ヴィンマン神父命日(2006年)

7日(水) 宣教地司祭育成の日(献金)

日本にはこれまで海外から多くの宣教師が来て、キリスト教の信仰をもたらしてくれました。現在の信徒数に対して司祭の数は確かに多いでしょう。でも、キリストを知らない人の数を考えると、もつともつと司祭が必要ですが、

(日本の総人口に対する割合は、宣教師を含めても、約9万1千人に1人です)。

「宣教地司祭育成の日」は、日本だけでなく世界中の宣教地において司祭の育成が大切なことに気づき、そのために祈り、献金をささげるよう呼びかけます。この日の献金はローマ教皇庁に集められ、全世界の宣教地の司祭育成のために援助金として送られます。

▼鹿兒島市主任司祭会・教区本部・15時

8日(木) 無原罪の聖マリア

11日(日) 待降節第3主日

▼鹿兒島市民クリスマス・ザビエル教会・14時

講演「わたしを受け入れてくれますか(クリスマス)」講師・中村倫明神父(長崎教区司祭)

17日(土) 種子島Y.O.U.C.A.T. 20時

18日(日) 待降節第4主日

19日(月) 有馬信茂神父命日(2007年)

20日(火) 大野和夫神父追悼ミサ・カテドラル・14時

23日(金) 松永正男神父叙階記念(1969年)

▼青年会主催「中高生クリスマス会」・教区本部・9時

25日(日) 主の降誕

▼オリープの会・教区本部・14時

26日(月) 聖ステファノ殉教者

27日(火) 聖ヨハネ使徒福音記者

▼山口好信神父霊名

▼田邊徹神父霊名

▼末吉卓也神父霊名

▼寝占敦之神父霊名

28日(水) 幼な子殉教者

▼教区本部事務所仕事納め

30日(金) 聖家族

祈りの意向

【ノベナ】クリスマスに受洗する人々(12月21日)

【祈祷の使徒会】世界共通・「子ども兵士」の撲滅

宣 教・ヨーロッパ

日本の教会・クリスマスに教会を訪れる人のため

温もりと信念に満ちた方でした！

先に天国に旅立たれた大野神父様へ

コーヒー一杯の思い出

教区司祭団代表 中野裕明神父

神父、貴島丈弥神父、田代竜之神学生、

奄美信徒のお父さんへ

信徒代表 平 敬司

拝啓、大野神父様
先週金曜日の午前中、神父様がお亡くなりになったとの一報がありました。その後、間もなくして、地区長の永山神父様から弔辞を頼まれました。突然のことです。戸惑いましたが、いつも変わらぬ神父様の笑顔が胸に浮かんできて、「神父様にご報告すべきことがあったなあ」と思い、弔辞をお引き受けしました。

大野神父様の頃から40数年、神父様にはかわいがっていただき、何の遠慮もてらいもなく話し合いの相手をしてもらっていただきました。神父様に手紙を差し上げたことは一度もありませんでした。今回、このような形で、皆様の前でお手紙


を公表する羽目になりました。「公表する羽目になった」など「失礼な言い草」と皆さんは思うかもしれませんが、私と神父様との会話はいつもこんなに遠慮のないものでした。神父様は「来る者拒まず、去る者追わず」というスタンスなので、誰でも気軽に近寄れたと思います。「おい、コーヒーを飲んでいかにね」と声をかけてもらったのが、鴨池時代の神学生の頃でした。この声かけは生涯に渡りました。この声かけで、飲みながら、食べながら、テニスをしたながら、色んな話をしましたね。しかも内容のある有益な対話ばかりだったと思います。神父様の思いは、

奄美信徒のお父さん、大野和夫神父様へ。感謝とお礼をたくさんある中から2つ話します。
神父様は「じゃあ、先に行くから...。君たちは後から来いよ」と冗談の一つも言わずに、さつきと行ってしまわれました。いつも「死」について「死に上手と下手な死に方があるんだよ」と語ってくれました。介護もされず、見舞いもさせず、「さよなら」も言わず旅立ったということ、私たちに手本を示されたのでしようか。
「死ぬこと、亡くなること」

を生んだのです。今年、卯年の美島春雄神父様が神に召されました。同じく卯年の先輩の神父様も召されました。殿の卯年の私は、今後、満月を見上げながら献杯したいと思えます。

でも、毎日祭壇を上り下りする姿に、信徒は皆、ハラハラ、ドキドキするのではありません。杖が1本から2本になった時は、「大丈夫ですか」と聞きますと、「足が四つもあるんだ。大丈夫」と笑った神父様でした。それでも侍者を務める人は、皆、心配したのです。亡くなる前まで、祭壇に立ち続けられた神父様に、私たちが教えられました。信仰についても、社会生活の中でも、「最後までやり抜くことが大切なこと」。ありがたいことでした。

新刊のご案内
「フランシスコ 教皇さまへ」
世界の子どもたちが教皇へ宛てた30の手紙。教皇がその質問に、やさしくキチンと答えます。ドン・ボスコ社 定価1,200円+税



鈴木神父のやさしい言葉

占星術とイエスの誕生

マタイ福音書ではイエスの誕生にあたって、占星術の学者たちがヘロデ王のところへやって来たことが描かれています。ここでは複数形で「学者たち」と表現されているだけで「三人」とは特定されていませんが(2・1)、後の「黄金、乳香、没薬を贈り物として捧げた」という記述から(2・11)、彼らは三人として伝承されてきたのでし

よう。しかし、その理由はこれだけではありません。この話は天文学的事実を踏まえたものである、と言われることがあります。この考えに基づけば、彼らが東方で見た光り輝く星、即ち、イエス様の誕生を現す星とおおいぬ座の恒星シリウスで、学者たちとはオリオン座の中心にある三つの星のことを指しています。ここにも学者たちが三

人として伝承されてきた所があるのでしょうか。
さて、これらがある日、太陽が昇る位置と一直線上に並ぶ時がありました。この「時」のことを踏まえて、福音記者マタイは学者たちのことを描いた可能性ががあります。

天体を地上の何らかの出来事を写し出すものとして考えたり、反対に天体の動きが地上に様々な出来事を生じさせる原因であると考えたりしていたのです。こうして天体の動きが精緻に観察されるようになり、やがてこれが体系化され、学問化されたものが占星術なのです。

の世に啓示されたものであることを表現したかったのではありません。言い換れば、マタイは星を持ち出すことにより、イエス様の誕生の経緯について語られてきた昔からの伝承が最先端の科学によって証明された、ということも表現したかったのかもしれない。

因みに、占星術と聞くと星占いのことを思い浮かべてしまいかもしれませんが、古代にあってもそれは現代でいうES細胞の研究のような最先端の学問でした。古代人たちは日々、規則性を保ちながら少しずつ動き、それでいて時として不可思議な出来事が生じる

では、なぜマタイ福音書だけに占星術の学者たちのことが描かれているのでしょうか。おそらく福音記者マタイは彼らを登場させることにより、イエス様の誕生は旧約の預言だけでなく、星の動きによってもこ

「鈴木神父のやさしい言葉」は、今月で終了いたします。ご愛読、ありがとうございました。



南九州小神学院の初代院長を務めた大野神父